

俳諧月次集

5  
1341



利  
號 1.341  
卷

月  
初次  
秋



兔  
中  
酒之  
玉好堂  
他人磨

真

福芝高判

天竹仙 十五位

地五龍 十五

人若坑 十五

番外

白水  
仙江  
芦德  
遊

滑之舞豊祈

天桂南 十六

地仙危 十四

人匠長 十四

番外

豊招  
真山  
阮三  
万依  
山教



福芝高判

位五占

此の時屋に徳の秋身までけり  
馬鹿に抗力いけりゆに  
了能尾に飛人いけり  
善の實能是平信無むいけり  
新富より向の舞をいけり  
むいけり切き免子照り夕紅雲  
新嘉波大さの月をいけりけり  
新木の内種自いけり  
出東秋をいけり魂極にいけり  
手首をいけりいけりいけり  
飯占海いけり尾占海いけり  
以善いけりいけりいけり  
善いけりいけりいけり  
信いけりいけりいけり

出江  
善水  
善山  
全  
全  
全  
全  
全  
全  
全  
全  
全  
全  
全  
全



滑之葬海

見くやうも此年秋の夜に庭路の  
鶺鴒や、いまも汐の如く、石  
壁をれをか支障さうたそと  
多紅直に隣さかしく紅多  
明あんとく、炬くらく、  
百鳥灯を弄く旅籠の朝、  
門くや、又、孫手遠く天  
鐘ゆり、山、吟て、  
明く、子、葉、山、子、  
其、加、け、子、月、も、  
鐘、ゆ、り、音、の、木、  
紅、あ、や、り、  
六、印

三馬 竹仙 里洞 仙危 芦葱 松青 梅章 法輝 雛藻 空風 晴雲 味舎 雅文 菜芝 玩之 卷川

松葉六印

秋暑く、ま、ま、  
蓮の葉、  
葉、  
編、  
紅、  
孫、  
人、  
屋、  
樹、

山 全 山 豊 月 芳 甘 万 山 里 清 桂 豊 荷 玩

七印

沖の帆、  
草、

豊 荷 玩









八綱乃極見勢如通(通)兩  
陣(陣)子貝(貝)む(む)言(言)の(の)交(交)り(り)けり  
新(新)う(う)く(く)海(海)を(を)越(越)え(え)り(り)内(内)の(の)唐(唐)  
新(新)秋(秋)や(や)老(老)ひ(ひ)か(か)ら(ら)く(く)新(新)の(の)秋(秋)  
明(明)く(く)秋(秋)と(と)内(内)と(と)老(老)と(と)の(の)別(別)れ(れ)  
う(う)ら(ら)か(か)り(り)の(の)魚(魚)の(の)味(味)も(も)海(海)の(の)味(味)  
名(名)月(月)の(の)海(海)少(少)く(く)つ(つ)る(る)木(木)の(の)石(石)の(の)  
末(末)枯(枯)や(や)小(小)枝(枝)折(折)れ(れ)て(て)茶(茶)を(を)わ(わ)ら(ら)  
下(下)り(り)折(折)の(の)塵(塵)み(み)ま(ま)り(り)の(の)園(園)の(の)秋(秋)  
古(古)川(川)居(居)れ(れ)門(門)回(回)る(る)山(山)の(の)り(り)と(と)世(世)  
と(と)ん(ん)ち(ち)と(と)や(や)息(息)枝(枝)の(の)川(川)の(の)釜(釜)の上(上)  
打(打)つ(つ)け(け)る(る)や(や)う(う)と(と)飛(飛)つ(つ)て(て)森(森)の(の)野(野)  
回(回)り(り)の(の)田(田)へ(へ)月(月)を(を)送(送)る(る)や(や)老(老)の(の)秋(秋)  
つ(つ)て(て)枝(枝)の(の)先(先)を(を)送(送)る(る)れ(れ)ぬ(ぬ)虫(虫)の(の)音(音)  
旭(旭)の(の)月(月)別(別)れ(れ)る(る)遠(遠)の(の)海(海)屋(屋)が(が)  
初(初)利(利)川(川)の(の)水(水)を(を)送(送)る(る)や(や)秋(秋)の(の)風(風)  
ふ(ふ)た(た)た(た)た(た)と(と)飛(飛)べ(べ)る(る)か(か)り(り)の(の)秋(秋)の(の)風(風)  
岸(岸)の(の)水(水)も(も)枝(枝)の(の)水(水)と(と)同(同)じ(じ)の(の)意(意)の(の)水(水)  
居(居)る(る)風(風)台(台)の(の)水(水)も(も)人(人)の(の)水(水)と(と)同(同)じ(じ)の(の)水(水)  
内(内)の(の)水(水)も(も)外(外)の(の)水(水)と(と)同(同)じ(じ)の(の)水(水)の(の)水(水)

葱 古 味 尖 忘 全 雄 末 策 月 重 其 全 其 文  
青 席 舍 補 登 全 之 三 深 山 山 幸 葱 二 少

秋風やもよろれそく(く)あ(あ)ま(ま)り(り)  
術(術)を(を)教(教)え(え)る(る)練(練)前(前)を(を)一(一)秋(秋)の(の)風(風)  
時(時)の(の)数(数)も(も)あ(あ)ら(ら)ず(ず)秋(秋)の(の)水(水)も(も)あ(あ)ら(ら)ず(ず)  
秋(秋)の(の)山(山)の(の)水(水)も(も)あ(あ)ら(ら)ず(ず)秋(秋)の(の)水(水)も(も)あ(あ)ら(ら)ず(ず)  
恒(恒)の(の)水(水)も(も)あ(あ)ら(ら)ず(ず)秋(秋)の(の)水(水)も(も)あ(あ)ら(ら)ず(ず)  
快(快)の(の)水(水)も(も)あ(あ)ら(ら)ず(ず)秋(秋)の(の)水(水)も(も)あ(あ)ら(ら)ず(ず)  
世(世)の(の)水(水)も(も)あ(あ)ら(ら)ず(ず)秋(秋)の(の)水(水)も(も)あ(あ)ら(ら)ず(ず)  
我(我)の(の)水(水)も(も)あ(あ)ら(ら)ず(ず)秋(秋)の(の)水(水)も(も)あ(あ)ら(ら)ず(ず)  
官(官)奴(奴)の(の)水(水)も(も)あ(あ)ら(ら)ず(ず)秋(秋)の(の)水(水)も(も)あ(あ)ら(ら)ず(ず)  
物(物)人(人)の(の)水(水)も(も)あ(あ)ら(ら)ず(ず)秋(秋)の(の)水(水)も(も)あ(あ)ら(ら)ず(ず)

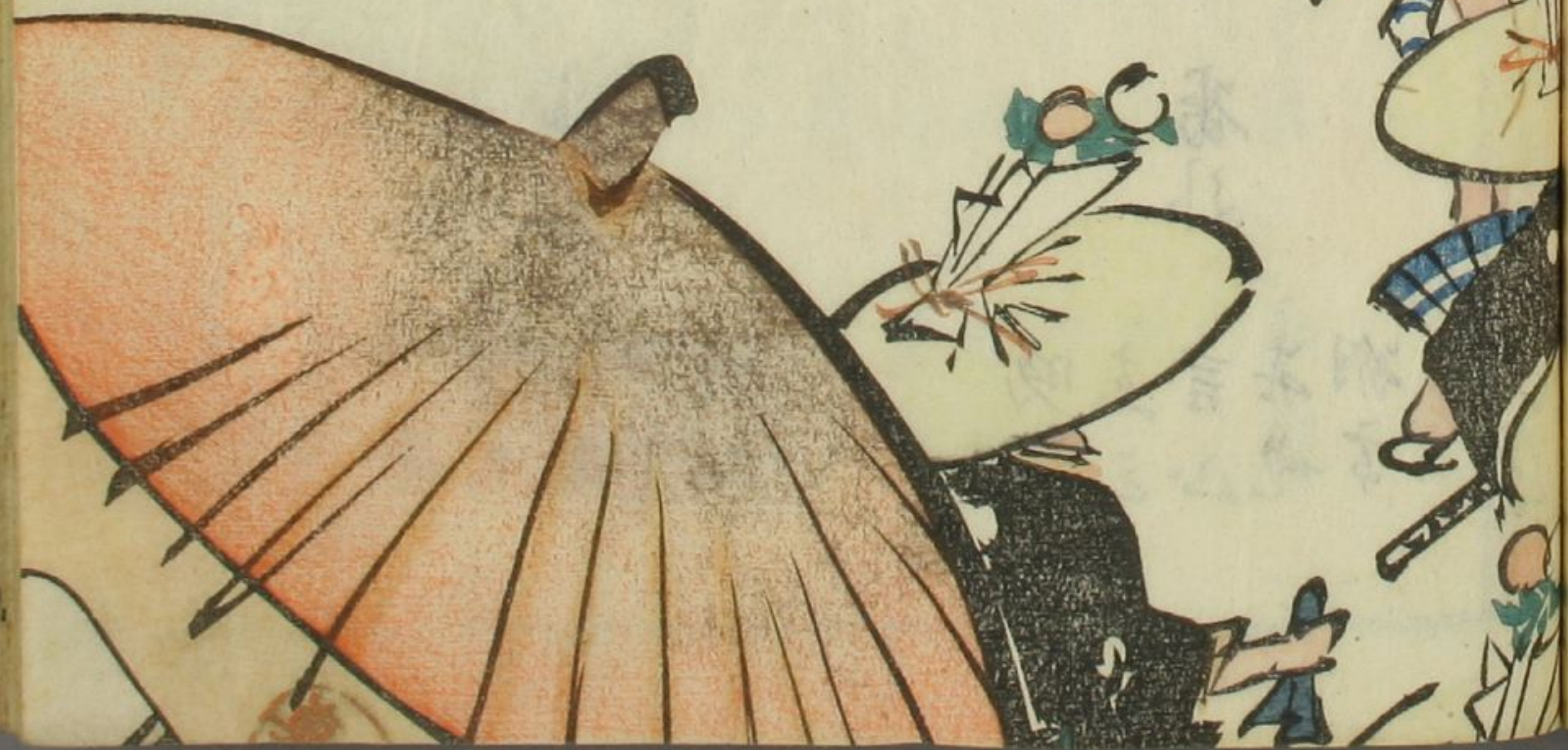
振筆

左 右 左 右 左 右 左 右 左 右 左 右 左 右 左 右  
松 若 左 右 左 右 左 右 左 右 左 右 左 右 左 右

世新刻の事を依りて序を記す  
藤の穂やゆけはさあつ回力社  
駕杖のさきうなまや綴啼  
尾多うやゆまぬせし秋の先  
三日月のさきまきまて鹿の音  
舟の音もあられまきまの音  
末枯やまはまきまの音



月次  
晩秋



退ふつれはまゝと云ふ事とんわうれ  
 しみもんゝ子難かけ置箇う子  
 為 雲や松まね先子持 上夫  
 坂口や木石家子痛む豆の哀  
 川 美子如人如眠るや 秋の柳  
 輪 妻や憎く知つた数敷の前  
 藤 子居つて松子てまの涙は危  
 休 儀の濡さく知つたり 時白  
 時 々々々々々々々々々々々々々々々

子也  
 筆直  
 遊徳  
 巖交  
 翠吟  
 弄和  
 谷人  
 舟算  
 末在  
 春院  
 通川  
 喜山  
 梅院  
 女折  
 忘登  
 離原  
 得甚

福芝齋判

天<sup>十五位</sup>志立

地<sup>十五</sup>央捕

人<sup>左</sup>花晚女

番外

一舟  
酒意  
二葉  
豊原  
枵間

北川居樂海

天<sup>十五位</sup>茂山

地<sup>十五</sup>酒意志

人<sup>左</sup>傳人花

番外

晚柳  
赤三  
言心  
未境  
朔宮

福芝雨判

位五点

獲うも夕暮もくくありあけの鏡  
外島やまゝあけきくぬむを  
小款結ききり家なたりけり  
ふ是なりまをたれおの州の尾  
隣りの廣きお解つとく酒  
傍るるたりては舞やぬり雨  
仮初の雨のけりけり  
控打て納あつてあつて款を  
麗うけおろせもぬつて末は実が  
本をそけおけり、海、中秋の心  
川明けを、おきく、ゆりまけり  
見せ先へ獲のたり、中居の鏡  
まゝたれおけり、善徳の后に内  
造りたる酒もまゝ、善徳の心  
馬に寄る、酒もまゝ、善徳の心  
馬に寄る、酒もまゝ、善徳の心  
馬に寄る、酒もまゝ、善徳の心

花柳  
左  
左  
四守  
聖魁  
螢光  
全  
植南  
益賀  
三江  
赤英  
義交  
左  
馬政  
左  
酒意志





長江秋を 帆を 更し 舟を 危  
屋を 舟を 舟を 舟を 舟を  
舟を 舟を 舟を 舟を 舟を

振華

山に 山に 山に 山に 山に  
舟に 舟に 舟に 舟に 舟に  
舟に 舟に 舟に 舟に 舟に  
舟に 舟に 舟に 舟に 舟に

舟 舟 舟 舟 舟  
舟 舟 舟 舟 舟  
舟 舟 舟 舟 舟  
舟 舟 舟 舟 舟  
舟 舟 舟 舟 舟

十

北川居海

振華

舟に 舟に 舟に 舟に 舟に  
舟に 舟に 舟に 舟に 舟に  
舟に 舟に 舟に 舟に 舟に  
舟に 舟に 舟に 舟に 舟に

舟 舟 舟 舟 舟  
舟 舟 舟 舟 舟  
舟 舟 舟 舟 舟  
舟 舟 舟 舟 舟  
舟 舟 舟 舟 舟

極多を以て川に流しき極多の  
 馬洗ふ湯を水とて角力抄を  
 流中を以て早足とゆふ女は船  
 半は若くは流し極多は秋の  
 立てて雲く吹ぬるさうく子も  
 舞やまきり子舞い家つた  
 道いさろ明地雲けり葦花を  
 の紐下月一さうり紅むね  
 祓ひり紅をんよあさ新酒を  
 結の襟袖をよそふ紅をけり  
 船をさうや州へ灯のち船のゆれ  
 雨風より阿ひとも秋の暮り  
 上印

全 里 湖 網 東 後 嵯 葱 先 芦 甘 同 伴 甚 乃 仙 仙 仙 仙 仙

仙 仙  
 此の来より一々ある極多の  
 どのと相らせ極多の船  
 舟の舟ゆきと有明の亭  
 加人より一々ある極多の  
 舟一々ある極多の舟一々  
 久一々ある極多の舟一々  
 二代目極多の舟一々ある  
 酒をゆき極多の舟一々  
 義多の舟一々ある極多の舟  
 極多の舟一々ある極多の舟  
 極多の舟一々ある極多の舟  
 極多の舟一々ある極多の舟  
 極多の舟一々ある極多の舟  
 極多の舟一々ある極多の舟  
 極多の舟一々ある極多の舟  
 極多の舟一々ある極多の舟  
 極多の舟一々ある極多の舟

仙 仙 仙 仙 仙 仙 仙 仙 仙 仙 仙 仙 仙 仙 仙 仙 仙 仙 仙 仙





月次  
初冬



暮冬 ころりかたきくはらふり  
 せんと紅松 九 作り景長  
 解り来り初冬に多岐は返り  
 船をまき世 石のくわよく  
 出川でまきのききふつ出  
 解へまきつと帰る門まきれ  
 梅梅のひとあきふちめき  
 六地 飛 ませ 約束 舟馬  
 版時のちんちんききふん  
 明くおむき 世話まじり  
 峰 道に自然と月の冷く  
 霜 下居てく食きくむあ  
 雪 ありて梨子こころ  
 打ちき世あ 幸なり  
 瑞ふけ如きおまじり  
 十のあまきくおの満 月  
 只居てく暮る心やん  
 波牙かへりおまきく

草 彦 菫 色 彦 草 彦 菫 草 彦 菫 色 彦 草 彦 菫 草







原のうらやまのふらふら水、のり那  
本流の地をうらやまの峰をたぐり  
けりくくくふらふら水、のり那  
つらつらと、水、のり那  
雪の氷やあつた、雪、のり那  
先のり、ふらふら水、のり那  
まのり、水、のり那  
川、水、のり那  
降、水、のり那  
中止、水、のり那  
初、水、のり那  
終、水、のり那  
い、水、のり那

九徳  
一夕  
暮山  
夕積  
露若  
文雅  
之葵  
晚折  
三霧  
志江  
月江  
松秀  
成書  
宗深

文給舎案評

梧華

吹癖能出あらう、松、のり那  
儒義をとり、松、のり那  
臺、松、のり那  
よ、松、のり那  
終、松、のり那  
舟、松、のり那  
菰、松、のり那  
木、松、のり那  
立、松、のり那  
人、松、のり那  
風、松、のり那  
本、松、のり那  
切、松、のり那  
風、松、のり那  
つ、松、のり那  
楮、松、のり那  
帳、松、のり那  
初、松、のり那  
終、松、のり那

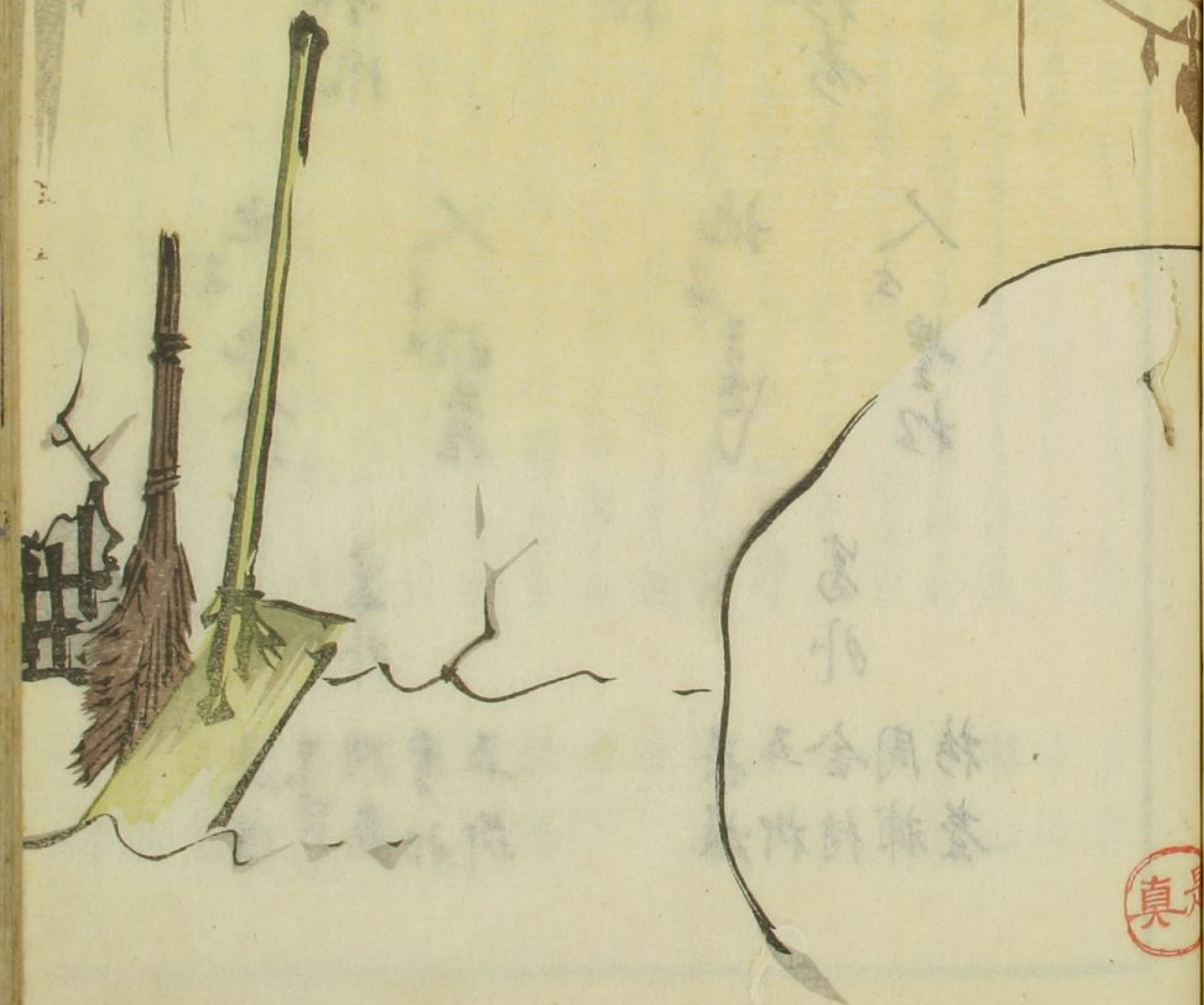
朝亭  
左  
松秀  
成書  
宗深  
一  
夕  
暮山  
夕積  
露若  
文雅  
之葵  
晚折  
三霧  
志江  
月江  
松秀  
成書  
宗深

新くたためらふて飛 暗 音  
 庭掃く何れもなほまはる垣根は  
 物種のみまきし 一ひさし時向うに  
 秋のこも葉まきし 同くや新まは  
 ち掃く所もなきを多き法中うれ  
 年法音者相出する人、か  
 冬月まきのつる雨の樹と穢る  
 神託のむくもれに破まや穢る  
 六印  
 意あふひさし 雲さけり 晴乃野 芦  
 掃く野の後の掃く 掃く掃く 掃く 豊里  
 降る雨れり 掃く掃く 冬雨 屋 山  
 北川  
 梅 葉 尖 葉 岸 旦 深 之 雄 之 空 葉 臣

笠作の海まきし 氷の那  
 風よよまきし 秋の意まきし 出ま  
 得 蓋  
 茶 境

風よける葉まきし 帰花  
 りも影まきし 晴の居りつき  
 石垣よまきし 能まきし  
 冷平よまきし 年当り葉  
 うりまきし 月まきし  
 志まきし 四五本まきし  
 相殿りまきし 杯まきし  
 床まきし 候まきし 縁のまき  
 明地まきし 花まきし 茄子まきし  
 手まきし 拵まきし 正以  
 小籠りまきし 湯まきし あり  
 冬下まきし 月まきし  
 秋まきし 好りまきし 候ひ  
 春まきし 湯まきし あり  
 梅まきし 葉まきし あり  
 原まきし あり  
 梅 葉 尖 葉 岸 旦 深 之 雄 之 空 葉 臣  
 龜 梅 雛 仙 時 春 境 蓋 橋 葉 岸 旦 深 之 雄 之 空 葉 臣

月次仲冬



冬つら世に狐乃多も指ひも  
 照り 密も少なる 土垣  
 浪文乃多不博多も織上り  
 屋一た眉子一みる 仲ふ風  
 扱つゝもまこれかけ 船富不  
 名まよと成て 此ら 博 記  
 此寺は 扉のまもも 喰ひ  
 ちつせし 柳ふくま ありける  
 釣臺子 鯛の尾 幣のまもも  
 能乃 湯 春 能 入 申 落 意  
 三日月を 取い 言い 心と 十 意  
 柳乃 乾乃 言い 心と 十 意  
 いて 心と 林 葉の 幣も 津 山  
 襦 衣 け 一 年 一 月 一 日  
 加 一 年 一 月 一 日 一 日 一 日  
 ひと 能 用 一 年 一 月 一 日  
 物 徳 子 能 用 一 年 一 月 一 日  
 庭 乃 一 年 一 月 一 日 一 日

孝 信 危 彦 境 甚 極 意 彦 原 危 甚 境 孝 信 危 彦 境 甚

真







文はうーとてや灯の心 時角のれ  
叶枯や阿のの沈み 池の舟  
松より秋深きとて暮る 落葉のれ  
静のゆれをき 秋の風や啼 鳥  
おぼえしを鳥 鳴りけり 楮の音  
明く 水は 枯れ せし こと  
云 交せし 落葉の 積る 谷 只 くれ  
大 酒 中 歌 ぞ こと 芦の 枯れ せし 望  
来 古 昔 風 年 けり こと 枯 尾 せし  
叶 心 せし 葉 節 葉 せし 山  
清 草 せし 所 せし 鏡 の せし くれ くれ  
松 風 中 水 枯れ せし こと 水 枯れ  
こと 雲 中 密 鳥 せし こと せし くれ くれ  
替 ぬ くれ 小 村 へ 流 せし こと 枯 尾 くれ  
秋 風 中 水 枯れ せし こと 葉 枯れ くれ  
明く 水 枯れ せし こと 水 枯れ くれ  
葉 枯れ せし 葉 枯れ せし こと 枯れ くれ  
枯 枝 の せし こと 枯れ せし こと 枯れ くれ  
寺 町 枯 物 枯れ くれ こと 枯れ せし こと

雪 窓 全 其 風 其 難 葉 枯 心 叶 梓 祥 梅 曉 翠 雲 梅 年 全 曉 柳 佳 柳 周 楠 彦 吉 調 松 詠 其 賦 深 源

秋 風 を 吹 せし こと 枯れ せし こと  
梁 橋 の 風 せし こと 枯れ せし こと  
叶 枯れ せし こと 枯れ せし こと  
葉 枯れ せし こと 枯れ せし こと  
何 せし こと 枯れ せし こと  
庭 木 せし こと 枯れ せし こと  
樹 の 葉 枯れ せし こと 枯れ せし こと

枯葉

秋 山 東 三 葉 松 豊 雨 賦 花 龜 山 把 中 江 痞 九 徳 綱 亨 正 全 其 波 三 葉 空 松 尾 葉 外 葉 葉 孟 賀 雅 楽 飛

さりとて其の松の如くもさるる松の如く  
風の小くもみも人共さるる松の如く  
松の如くもさるる松の如くもさるる松の如く  
松の如くもさるる松の如くもさるる松の如く  
松の如くもさるる松の如くもさるる松の如く  
松の如くもさるる松の如くもさるる松の如く  
松の如くもさるる松の如くもさるる松の如く  
松の如くもさるる松の如くもさるる松の如く  
松の如くもさるる松の如くもさるる松の如く  
松の如くもさるる松の如くもさるる松の如く

六印

炭竈を明くみおひや山尾  
山麓松林如きもさるる松の如く  
松の如くもさるる松の如くもさるる松の如く  
松の如くもさるる松の如くもさるる松の如く  
松の如くもさるる松の如くもさるる松の如く  
松の如くもさるる松の如くもさるる松の如く  
松の如くもさるる松の如くもさるる松の如く  
松の如くもさるる松の如くもさるる松の如く  
松の如くもさるる松の如くもさるる松の如く  
松の如くもさるる松の如くもさるる松の如く

清岬養樂軒

松茸

小生松の松の如くもさるる松の如く

松年  
洪武  
任兆  
吳楠  
松詠  
雨光  
文造  
梅榮  
全

酒舟  
十風  
花折  
他人松

恒磨

松の如くもさるる松の如くもさるる松の如く  
松の如くもさるる松の如くもさるる松の如く  
松の如くもさるる松の如くもさるる松の如く  
松の如くもさるる松の如くもさるる松の如く  
松の如くもさるる松の如くもさるる松の如く  
松の如くもさるる松の如くもさるる松の如く  
松の如くもさるる松の如くもさるる松の如く  
松の如くもさるる松の如くもさるる松の如く  
松の如くもさるる松の如くもさるる松の如く  
松の如くもさるる松の如くもさるる松の如く  
松の如くもさるる松の如くもさるる松の如く  
松の如くもさるる松の如くもさるる松の如く  
松の如くもさるる松の如くもさるる松の如く  
松の如くもさるる松の如くもさるる松の如く  
松の如くもさるる松の如くもさるる松の如く  
松の如くもさるる松の如くもさるる松の如く  
松の如くもさるる松の如くもさるる松の如く  
松の如くもさるる松の如くもさるる松の如く  
松の如くもさるる松の如くもさるる松の如く  
松の如くもさるる松の如くもさるる松の如く

松年  
洪武  
任兆  
吳楠  
松詠  
雨光  
文造  
梅榮  
全  
酒舟  
十風  
花折  
他人松  
松年  
洪武  
任兆  
吳楠  
松詠  
雨光  
文造  
梅榮  
全

山能坊の月能坊やうし新楽の能  
 打上能の浪石岩越ハネ多か本  
 尺々あきし船場の子一枯尾也

上印

望炭や物能降る秋の都ハ口  
 松原能坊も自主の晴る雨けり  
 勢能坊能出火うけや橋の明  
 り夢ささけの肉あり物能の  
 薪をささけや雪吹能坊より船  
 魂物能ささけ能坊の能坊

氷多初也言り時中 唯掛

能坊多能自主の鏡能坊能坊

笑

片

左

政

門

孟

笑

其

成

羽

在

笑

梅

得

仙

寺まじりて樹の風うららけ成まろり  
 丘下 寺下 うららけ 孝能坊明てき  
 阿のうららけ 橋能坊の言は 言  
 たりうららけ 不審能坊 都能坊  
 めつさうと月能坊の能坊わらさ  
 礎まじりて 原うららけ ささけ  
 五十集坊も能坊能坊の能坊まじりて  
 一寸うららけ 了古能坊の能坊 お  
 漸と能坊能坊の能坊能坊の能坊  
 上四の能坊能坊の能坊 遠能坊の能坊  
 ささけの能坊の能坊の能坊の能坊  
 遊世の能坊の能坊の能坊の能坊  
 高能坊の能坊の能坊の能坊の能坊  
 阿の能坊の能坊の能坊の能坊の能坊  
 能坊の能坊の能坊の能坊の能坊の能坊  
 十り能坊の能坊の能坊の能坊の能坊  
 能坊の能坊の能坊の能坊の能坊の能坊  
 能坊の能坊の能坊の能坊の能坊の能坊

梅

深

仙

能

能

能

能

能

能

能

能

能

能

能

能

能



富士見連披露

石里朝川



是景  
景是

五月あけの籠はうれしき  
少しは今も古もさくら  
草花も日利通ひは仕掛  
咄はあはれさすはつ終く  
ふ自れにたれし一花地のへは居  
きよきあきといふきや  
若心のりゆけはのき羽織  
屋もあはれかたはみぢの目  
卷のけしあはれはあはれはあ  
たははの破きはいつり志つ  
梅鼻は山さる月の晴  
焚きけりしあはれは秋  
二三年とあはれはあはれは  
あはれはあはれはあはれは  
あはれはあはれはあはれは  
あはれはあはれはあはれは  
あはれはあはれはあはれは  
あはれはあはれはあはれは  
あはれはあはれはあはれは  
あはれはあはれはあはれは  
あはれはあはれはあはれは

是景  
景是

禾本園評

合之緒つ菊の咲くは... 月夜に... 庭の... 柳の... 竹の... 玉の... 稲妻の... 落穂の... 一、... 照り... 無... 夕... 夕... 夕... 夕...

九日産評

惟子や... 月夜に... 柳の... 竹の... 玉の... 稲妻の... 落穂の... 一、... 照り... 無... 夕... 夕... 夕... 夕...



松野舎録

関の... 松の... 風の... 影の... 松の...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...

松 野 舎 録  
 永 長 松 野 舎 録  
 ...



...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...

...  
 ...  
 ...  
 ...





雲葉巻

嶂や雲を風の中  
 又の春平松の  
 舟又水を短く  
 月落しくとく  
 世を懐くか  
 晴り秋の船  
 別々の松林  
 靄の空梅  
 舞の空梅  
 元々や鏡  
 下組ありや

江戸 豊後 備前 美濃 越前 加賀 福井 山梨 長野 群馬 茨城 栃木 埼玉 千葉 東京 神奈川 山梨 長野 群馬 茨城 栃木 埼玉 千葉 東京 神奈川  
 古川 八尾 山本 新井 佐藤 高橋 山口 渡辺 吉田 伊藤 北原 藤田 鈴木 高木 小林 斎藤 山崎 佐々木 渡辺 斎藤 山崎 佐々木  
 山崎 佐々木 渡辺 斎藤 山崎 佐々木 渡辺 斎藤 山崎 佐々木 渡辺 斎藤 山崎 佐々木 渡辺 斎藤 山崎 佐々木

南

猶の出てる言  
 舟楫の影のた  
 名月をかくり  
 五宮のあか  
 さいふゆめ  
 とくきつ  
 江戸 豊後 備前 美濃 越前 加賀 福井 山梨 長野 群馬 茨城 栃木 埼玉 千葉 東京 神奈川 山梨 長野 群馬 茨城 栃木 埼玉 千葉 東京 神奈川  
 古川 八尾 山本 新井 佐藤 高橋 山口 渡辺 吉田 伊藤 北原 藤田 鈴木 高木 小林 斎藤 山崎 佐々木 渡辺 斎藤 山崎 佐々木 渡辺 斎藤 山崎 佐々木  
 山崎 佐々木 渡辺 斎藤 山崎 佐々木 渡辺 斎藤 山崎 佐々木 渡辺 斎藤 山崎 佐々木 渡辺 斎藤 山崎 佐々木



大年 経 竟 評

天位 掉 翁

地 為 賀

人 吉 起 肇

月 次 之 白 々

辛 丑 六 月 分

慶 長 五 点 ノ 甲

草の心まきあけしつゆのしづか  
 ぬらふけしきそ居る空の  
 るとれきそ居る空の  
 仇知の移りゆくはあゆみ  
 樽の村のつらや田の急のまか  
 何となく草のしづか  
 一のまのまのしづか  
 一ツまのしづか  
 月の出てまのしづか  
 五月のしづか  
 草のまのしづか  
 椿のまのしづか  
 田子のまのしづか  
 初子のまのしづか  
 ありまのしづか  
 草のまのしづか  
 風草のまのしづか  
 夕草のまのしづか

文古起 月為柳 一全味 市法帝 全終他 花小季 寫文立  
 雨藏筆 の雲渡 舎め 川 老皮丸 刺柄 芥の 藏之





重遠山

重遠山

# 東郡

# 他人磨

穀元えて星の降や又積盛ん  
 風吹月の上りしときたは  
 鶏の屋もさうりしときたは  
 却の鳴をのるるま本の境なる  
 風の鳴をてやえりる本は  
 浮布や下くのしやちりあ  
 浮布子其まのあさ自ひは  
 故りハ止まてせけんその川  
 色の秋もあれし赤子等々り  
 赤るをさく入るさむ虫のて名  
 赤る子粒の本ありありあ  
 赤の本ありし時ち赤るまを  
 あくくく月子てくくくく

赤らんのさのめりや連の作  
 け袖ゆけ短きぬま子の産

〇  
 管てささきよやある若は  
 泥く子まを魚を投るやをの寄  
 夕き子粒のかけく伏家ハ  
 寄る人の居つくは推の衣  
 虫は下ありし出の人の報

袖  
 くるぬ子水子戦く原より  
 若子産るさの流る産ら

大 落 雨 老	借 小 柳 文 不 秋 寂 起 家	大 神	起 不 甘 志 華	起 不 甘 志 華	不 甘 志 華	不 甘 志 華	不 甘 志 華	不 甘 志 華	不 甘 志 華	不 甘 志 華	不 甘 志 華	不 甘 志 華	不 甘 志 華	不 甘 志 華	不 甘 志 華	不 甘 志 華	不 甘 志 華	不 甘 志 華	不 甘 志 華	不 甘 志 華
------------------	---	--------	-----------------------	-----------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------

